

第 23 回小京都ふるさと祭

～ふるさと自慢、味自慢～



10月30日、第23回小京都ふるさと祭が、爽やかな秋空の下盛大に開催され、約2万人の来場者で賑わいました。

地元高校生による武者行列、各校区公民館女性部による灯ろう流し踊りがオープニングを飾り、地元園児による和太鼓演奏や歌謡ショーで来場客を楽しませました。また、劇団いぶぎと警察官合同の「防犯撲滅ステージ～オレオレ詐欺～」のステージは、実際に南九州市内でも起こった詐欺事件をミュージカル風にアレンジし、高齢者にも分かりやすく好評を博していました。その他、聴覚障害のある方々にも祭の雰囲気や楽しさを味わってもらうために、市内の手話ボランティアもステージ上で通訳するなど、地域全体で祭を盛り上げていました。



▲劇団いぶぎとと一緒に警察官も熱演しました。



▲熱唱する北山たけしさん。

▼ステージから目が離せません。



風にも負けず草原を疾走!

～第15回ポニーレース大会～

10月16日、アグリランドえいでポニーレースが開催され、市内外から25頭のポニーが集まり草原を疾走しました。この日は強風が吹き荒れ、時折霧がかかるコンディションでしたが、園内では、ポニーレースのほか、出店、ステージショーなど多くの催しで賑わいました。決勝レースでは、鹿児島市から参加した上堀内修さん所有のカミノキイレンダー（騎手：原田璃空くん）が優勝しました。

▼農業祭は、生産者と消費者の心のつながりを深めるとともに、市内で生産されている農畜産物や加工品の消費拡大を図るため毎年開催されています。



▲予選・決勝各5レースが行われ、スタートからゴールの瞬間まで観客からの声援が飛び交っていました。

川 辺町農業祭が盛大に開催

～JA南さつま川辺支所野菜集荷場前広場で～

10月30日、川辺町農業祭が開催され、茶、酪農、養豚、養鶏、加工製品など各生産部からたくさんのお店ブースが立ち並びかわなべ牛など飛ぶように売られていました。特設ステージでは地域農業振興功労者の表彰、幼稚園・保育所のお遊戯や神殿小学校のほたる太鼓、川辺中学校の吹奏楽演奏などたくさんの催し物があり、午後からは山川豊さんの歌謡ショーが行われ、訪れた方々はプロ歌手の歌声に魅了されていました。

竹屋神社の豊祭

～今年は上山田太鼓踊りを奉納～

10月19日に開催された「竹屋神社の豊祭」。一時は台風16号の来襲により中止が危ぶまれましたが、地域の人たちを元気づけようと実施を決定。当日、朝8時から夜9時頃まで勝目地区の各集落で踊りが披露



▲観客らは「伝統ある郷土文化が地元にあるのは誇りだ。地元も元気になる、長く続けてほしい」と勇壮な踊りを楽しみました。

されました。今年は、これまでの活動が評価され、かぎん文化賞、県の文化財保護功労者表彰を受賞しました。

高田みづえさんが母校で念願の交流

～優しい親方と力士も一緒に～

10月27日、高田みづえさんが母校の松原小学校を訪れ、二所ノ関部屋の力士さんとの交流学習を開催しました。これは高田さんからのご希望で実現し、学校をはじめ地域の方々も大喜びでした。綱引きや質問



▲学校では、みんなで相撲や綱引きをしたり歌に合わせて踊ったりとあっという間の楽しい時間を過ごしました。

タイムでは高田さんの楽しい進行で盛り上がり、夕方からは耳原公民館で地域の方々に力士らからちゃんこ鍋が振る舞われました。

ジュニアオリンピック陸上競技大会

～南九州市から3選手出場～

10月28日から30日にかけて横浜市で行われた第47回ジュニアオリンピック陸上競技大会の男子C(1年)1500m走に別府中学校1年倉村空選手、B男子砲丸投に穎娃中学校2年満永脩斗選手、ABC



▲左から、濱田さん、倉村さん、満永さん。

女子ジャベリックスローに穎娃中学校3年濱田奈那実選手が出場しました。自分の持てる力を思う存分発揮しました。

特 攻機の破片、ハワイから知覧へ

～戦艦ミズーリ記念館職員 来日～

米戦艦ミズーリに体当たりした特攻機「零戦」の破片が10月10日、連携を深める戦艦ミズーリ記念館(ハワイ州)から市へ寄贈されました。ワイデンバック学芸員は「こういった資料が忘れてはならない歴史の一つと



▲寄贈された破片は、零戦の突撃前後の写真とともに知覧特攻平和会館で展示されています。

して、若い世代に戦争体験を伝え、語り継いでいく役割を果たせれば」と話し、互いに戦争のない平和への思いを新たにしました。

初! 地域おこし協力隊員が着任

～前迫昇吾さん(鹿児島市出身)～

11月1日、市役所で委嘱式を行いました。今後は穎娃地域に住みながら市と派遣協定を結んだNPO法人穎娃おこそ会に勤務し、空き家再生や新規ビジネスの立ち上げなどに従事します。前迫さんは「穎娃語を使っ



▲前迫さん(右から2人目)と勤務先のNPO法人穎娃おこそ会の西村理事長と観光プロジェクトリーダーの加藤さん。

たWEBサイトを作成し、観光や地域産品をPRしたい」など抱負を話しました。活動期間は概ね1年以上3年以下となります。

火 葬場検討委員会が答申書を提出

～火葬場の再編を～

市長から諮問を受け、市の今後の火葬場のあり方について検討を行っていた南九州市火葬場検討委員会は、委員会としての意見を集約し10月21日、委員会を代表し武田幸雄委員長が、答申書を市長へ手渡



▲市長は「委員会の意思を尊重し今後の火葬行政に生かしてまいりたい」と述べ、答申書を受領しました。

しました。武田委員長が、現在使用している3施設の火葬場については今後再編を行うことなどの答申内容について説明しました。